

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成29年8月10日
【四半期会計期間】	第70期第1四半期（自平成29年4月1日至平成29年6月30日）
【会社名】	星和電機株式会社
【英訳名】	SEIWA ELECTRIC MFG. CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 増山 晃章
【本店の所在の場所】	京都府城陽市寺田新池36番地
【電話番号】	0774(55)8181
【事務連絡者氏名】	常務取締役 望月 友彦
【最寄りの連絡場所】	京都府城陽市寺田新池36番地
【電話番号】	0774(55)8181
【事務連絡者氏名】	常務取締役 望月 友彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第69期 第1四半期連結 累計期間	第70期 第1四半期連結 累計期間	第69期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年6月30日	自平成29年4月1日 至平成29年6月30日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (千円)	4,091,041	3,717,358	20,959,512
経常利益又は経常損失 () (千円)	159,930	306,658	66,198
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純損失 () (千円)	155,964	147,357	719,627
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	297,088	154,952	547,656
純資産額 (千円)	9,490,355	8,963,920	9,239,787
総資産額 (千円)	19,770,332	22,650,282	23,241,800
1株当たり四半期 (当期) 純損失金額 () (円)	12.89	12.18	59.51
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	47.9	39.5	39.7

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ (当社及び当社の関係会社) において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧米への輸出が持ち直すなか、企業業績や設備投資も堅調に推移し、雇用環境も改善傾向が続き、景気は緩やかな回復基調が継続しました。しかしながら、米国の政権運営の不安定さや東アジア地域の情勢など懸念材料も多く、景気の先行きは依然として不透明な状況にありました。

このようななか、当社グループにおきましては、設計開発力向上と製品リリースの迅速化、生産性向上などによる競争力ある生産体制の確立、製品品質の向上を図るとともに、新商品企画の促進、ソリューション営業の実践により収益体質の強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は37億17百万円（前年同四半期比9.1%減）となりました。営業損失は3億16百万円（前年同四半期は1億70百万円の損失）、経常損失は3億6百万円（前年同四半期は1億59百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億47百万円（前年同四半期は1億55百万円の損失）となりました。

なお、当社グループの情報機器事業の売上高は通常の形態として、他の四半期に比べ第4四半期に完成する工事の割合が大きいいため、業績に季節の変動があります。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

（情報機器事業）

主力製品であります道路情報機器において、高速道路向けの売上が前年同四半期に比べ減少しました。この結果、売上高は9億4百万円（前年同四半期比33.7%減）となりました。利益面では、売上の減少による影響が大きく、セグメント損失は4億63百万円（前年同四半期は4百万円の損失）となりました。

（照明機器事業）

民間設備投資関連の産業用照明器具においては、LED照明器具の売上が堅調に推移し前年同四半期に比べ増加しました。また、公共投資関連においては、トンネル照明器具を中心に売上が前年同四半期に比べ増加しました。この結果、売上高は13億84百万円（前年同四半期比41.8%増）となりました。利益面では、売上の増加とコストの改善により、セグメント利益は1億55百万円（前年同四半期は62百万円の損失）となりました。

（コンポーネント事業）

エアコン用の配管保護機材と配電盤や機械装置に用いる産業用配線保護機材は前年同四半期に比べ増加しましたが、監視カメラ関連製品は減少しました。また、電磁波環境部品は前年同四半期に比べ増加しました。この結果、売上高は13億60百万円（前年同四半期比20.8%減）となりました。利益面では、コストの改善により、セグメント利益は2億75百万円（前年同四半期は2億43百万円の利益）となりました。

（その他の事業）

商品仕入販売は52百万円、情報サービスなどは14百万円となりました。この結果、その他の事業の売上高は67百万円（前年同四半期比107.4%増）となりました。セグメント損失は21百万円（前年同四半期は43百万円の損失）となりました。

（2）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はなく、また、新たに生じた重要な対処すべき事項はありません。

（3）研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、73百万円であります。
なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	33,782,000
計	33,782,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,382,000	12,382,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は 100株であります。
計	12,382,000	12,382,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日	-	12,382,000	-	3,380,000	-	3,613,665

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 290,600	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 12,090,000	120,900	-
単元未満株式	普通株式 1,400	-	-
発行済株式総数	12,382,000	-	-
総株主の議決権	-	120,900	-

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
(自己保有株式) 星和電機株式会社	京都府城陽市寺田 新池36番地	290,600	-	290,600	2.35
計	-	290,600	-	290,600	2.35

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、清友監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,479,914	2,134,359
受取手形及び売掛金	9,264,992	7,484,008
有価証券	90,982	52,889
商品及び製品	927,455	1,387,060
仕掛品	377,998	550,516
原材料及び貯蔵品	2,698,121	3,074,763
その他	308,292	612,812
貸倒引当金	110,769	91,917
流動資産合計	16,036,987	15,204,494
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,981,330	5,449,175
減価償却累計額及び減損損失累計額	3,446,973	3,474,734
建物及び構築物(純額)	1,534,356	1,974,440
その他	6,878,094	6,720,290
減価償却累計額及び減損損失累計額	5,461,237	5,501,054
その他(純額)	1,416,857	1,219,236
有形固定資産合計	2,951,213	3,193,676
無形固定資産		
	645,138	624,396
投資その他の資産		
投資有価証券	2,307,477	2,340,089
退職給付に係る資産	190,785	188,144
長期未収入金	400,400	390,900
その他	1,178,111	1,171,956
貸倒引当金	468,314	463,375
投資その他の資産合計	3,608,460	3,627,715
固定資産合計	7,204,812	7,445,788
資産合計	23,241,800	22,650,282
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,157,840	4,442,806
短期借入金	2,381,384	3,167,102
1年内返済予定の長期借入金	1,250,684	1,179,284
未払法人税等	101,845	29,511
賞与引当金	272,561	107,842
受注損失引当金	91,883	145,858
その他	1,570,503	1,681,834
流動負債合計	10,826,703	10,754,240
固定負債		
長期借入金	2,243,219	2,002,148
役員退職慰労引当金	22,690	22,690
環境対策引当金	18,396	18,396
厚生年金基金解散損失引当金	509,746	509,746
退職給付に係る負債	2,058	2,058
その他	379,200	377,082
固定負債合計	3,175,310	2,932,121
負債合計	14,002,013	13,686,361

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,380,000	3,380,000
資本剰余金	3,675,014	3,675,014
利益剰余金	1,491,020	1,222,750
自己株式	200,245	200,245
株主資本合計	8,345,790	8,077,519
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	632,347	637,801
為替換算調整勘定	143,924	133,777
退職給付に係る調整累計額	100,768	98,055
その他の包括利益累計額合計	877,040	869,633
非支配株主持分	16,956	16,767
純資産合計	9,239,787	8,963,920
負債純資産合計	23,241,800	22,650,282

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	4,091,041	3,717,358
売上原価	3,391,619	3,137,137
売上総利益	699,421	580,221
販売費及び一般管理費	869,886	896,804
営業損失()	170,464	316,582
営業外収益		
受取利息	3,118	4,083
受取配当金	17,737	20,172
不動産賃貸料	8,679	8,679
為替差益	7,792	2,695
その他	10,673	14,749
営業外収益合計	48,001	50,381
営業外費用		
支払利息	10,930	11,399
売上割引	15,667	22,657
その他	10,868	6,400
営業外費用合計	37,466	40,457
経常損失()	159,930	306,658
特別利益		
投資有価証券売却益	-	4,300
出資金売却益	-	3,529
特別利益合計	-	7,829
特別損失		
投資有価証券売却損	752	2,118
投資有価証券評価損	2,171	-
固定資産除却損	0	641
環境対策引当金繰入額	6,960	-
ゴルフ会員権貸倒引当金繰入額	-	100
特別損失合計	9,883	2,859
税金等調整前四半期純損失()	169,814	301,688
法人税、住民税及び事業税	12,869	11,589
法人税等調整額	26,445	165,731
法人税等合計	13,576	154,142
四半期純損失()	156,238	147,546
非支配株主に帰属する四半期純損失()	273	189
親会社株主に帰属する四半期純損失()	155,964	147,357

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純損失()	156,238	147,546
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	80,310	5,454
為替換算調整勘定	58,397	10,146
退職給付に係る調整額	2,143	2,713
その他の包括利益合計	140,850	7,406
四半期包括利益	297,088	154,952
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	296,814	154,763
非支配株主に係る四半期包括利益	273	189

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

当社グループの情報機器事業の売上高は、受注状況から年度末に向けて完成する工事の割合が多くなる傾向にあるため、季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
減価償却費	111,279千円	109,073千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月12日 取締役会	普通株式	120,913	10	平成28年3月31日	平成28年6月13日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月11日 取締役会	普通株式	120,913	10	平成29年3月31日	平成29年6月12日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	情報機器	照明機器	コンポーネ ント	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,364,366	976,948	1,717,317	4,058,632	32,409	4,091,041	-	4,091,041
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	777	777	53,228	54,006	54,006	-
計	1,364,366	976,948	1,718,094	4,059,409	85,638	4,145,048	54,006	4,091,041
セグメント利益 又は損失()	4,902	62,972	243,772	175,897	43,037	132,859	303,324	170,464

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メカトロニクス製品、商品仕入販売、情報サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 303,324千円には、セグメント間取引消去2,062千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 305,387千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	情報機器	照明機器	コンポーネ ント	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	904,832	1,384,988	1,360,320	3,650,140	67,218	3,717,358	-	3,717,358
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	30	1,689	1,720	49,103	50,824	50,824	-
計	904,832	1,385,019	1,362,009	3,651,861	116,322	3,768,183	50,824	3,717,358
セグメント利益 又は損失()	463,204	155,130	275,821	32,252	21,211	53,464	263,118	316,582

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メカトロニクス製品、商品仕入販売、情報サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 263,118千円には、セグメント間取引消去30,490千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 293,609千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 6 月30日)
1 株当たり四半期純損失金額	12円89銭	12円18銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額 (千円)	155,964	147,357
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額 (千円)	155,964	147,357
普通株式の期中平均株式数 (株)	12,091,335	12,091,335

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

平成29年 5 月11日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....120,913千円

(ロ) 1 株当たりの金額.....10円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成29年 6 月12日

(注) 平成29年 3 月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8月10日

星和電機株式会社

取締役会 御中

清友監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 人見 敏之 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 三牧 潔 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている星和電機株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、星和電機株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。